



平成25年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年12月25日

上場会社名 株式会社 パルコ

上場取引所 東

コード番号 8251 URL <http://www.parco.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 牧山 浩三

問合せ先責任者 (役職名) 執行役経理部、事務統括部担当 (氏名) 野口 秀樹

TEL 03-3477-5791

四半期報告書提出予定日 平成25年1月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年2月期第3四半期の連結業績(平成24年3月1日～平成24年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年2月期第3四半期	193,855	3.1	7,341	19.3	6,922	15.4	3,793	30.7
24年2月期第3四半期	187,992	△3.2	6,156	△5.6	5,997	△1.9	2,902	△4.6

(注) 包括利益 25年2月期第3四半期 3,824百万円 (44.8%) 24年2月期第3四半期 2,640百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年2月期第3四半期	41.80	—
24年2月期第3四半期	35.26	29.15

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年2月期第3四半期	211,409	101,956	48.2
24年2月期	208,697	84,577	40.5

(参考) 自己資本 25年2月期第3四半期 101,956百万円 24年2月期 84,555百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年2月期	—	8.00	—	9.00	17.00
25年2月期	—	9.00	—		
25年2月期(予想)				9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年2月期の連結業績予想(平成24年3月1日～平成25年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	269,000	3.5	10,700	16.7	10,300	14.9	5,200	20.4	55.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年2月期3Q	101,462,977 株	24年2月期	82,475,677 株
② 期末自己株式数	25年2月期3Q	24,952 株	24年2月期	240,250 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年2月期3Q	90,737,312 株	24年2月期3Q	82,310,426 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は実施中でありませ

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、【添付資料】4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(4) 追加情報	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(6) セグメント情報等	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要等を背景に緩やかに回復してまいりましたが、消費増税、電気料金値上げに対する懸念や、欧州の金融不安、円高の長期化などの景気の下振れリスクが存在することから、景気の先行きについては不透明な状況が続きました。

個人消費につきましては、雇用や所得環境の先行きへの不安から慎重で堅実な消費意識が高まる一方で、質の良いもの、環境や社会貢献に繋がるものを求めるという傾向も顕在化してまいりました。

このような状況の下、当社グループは、パルコ既存店舗について「都心型店舗」「コミュニティ型店舗」の2つのグループに再編し、商圈特性に応じた改装と営業企画・販売促進企画展開により改革を進めております。また、新たな事業モデルであるZERO GATE（ゼロゲート）事業及び海外事業において、新店開業に向けた業務を推進するとともに、グループ企業が連動して関連事業及び新規事業の業務を推進いたしました。

この結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高は1,938億55百万円（前年同期比103.1%）、営業利益は73億41百万円（前年同期比119.3%）、経常利益は69億22百万円（前年同期比115.4%）となり、また、控訴中であつた渋谷パルコ・パート2の判決確定による損害賠償金5億69百万円を特別利益に計上したことにより四半期純利益は37億93百万円（前年同期比130.7%）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

<ショッピングセンター事業>

ショッピングセンター事業の売上高は1,751億98百万円（前年同期比102.7%）、営業利益は68億11百万円（前年同期比120.1%）となりました。

株式会社パルコにつきましては、前期から今春にかけて実施した大規模改装の効果により、池袋パルコや浦和パルコで売上高が大きく伸長したことに加え、今秋の改装で、アート・カルチャー・ファッションを融合した情報発信型ショップを導入し新たな消費環境を提案した渋谷パルコやセレクトショップの集積を高めマーケットでの存在感を示した名古屋パルコが、売上高の伸長とともに集客や話題性の面で貢献いたしました。

当期の改装につきましては、都心型店舗を中心に、時代感を捉えたファッションブランドや新業態のショップを導入することでファッションビルとしての情報発信力を高め、コミュニティ型店舗でも、デイリー需要に対応するショップの導入と同時に旬のブランドや上質なファッション、専門性の高いショップを導入することでパルコならではの地域に密着した新たな消費提案をいたしました。この結果、当第3四半期連結累計期間における全店での改装規模は合計約49,000㎡となり、当該区画の売上高前年同期比は119.4%と大きく伸長いたしました。

営業企画につきましては、『PARTY&SALE』（5月、11月）等の顧客優待企画を季節変化のタイミングに応じてフレキシブルに期間設定しファッションの実売期を支えるといったきめ細かい運営が奏効し、着実に売上高と客数を向上させることができました。また、当期より<PARCOカード>の会員サービスを充実させたことで新規入会者数が大幅に増加し、<PARCOカード>の取扱高が前年同期比二桁増と伸長したことも、売上高全体を押し上げました。

販売促進企画につきましては、渋谷パルコで、若手クリエイターを応援する『シブカル祭。2012～女子のミックスカルチャー祭～』（10月19日～29日）を前期に引き続き実施し、渋谷区のイベント『シブヤファッションフェスティバル』（10月20日）と連動することでパルコ店舗と街の活性化を図りました。さらに同様の企画を福岡パルコにも拡げ、九州の若手クリエイターを集めたカルチャー発信イベント『天神ラボ』（11月9日～18日）を初めて開催いたしました。

なお、当第3四半期連結累計期間の主な改装は次のとおりです。

都心型店舗

[渋谷パルコ]

新進クリエイターのインキュベーションとアート・カルチャー・ファッションを融合した情報発信をテーマに、自主編集ショップ「Meetscal<ミツカル>ストア by once A month」（9月）や当社が立ち上げたマイクロファンド「FIGHT FASHION FUND by PARCO」の対象デザイナーの第1号店「my panda」（10月）・期間限定ショップ「JUN OKAMOTO pop up shop」（10月11日～21日）をオープンさせたほか、パート1・6階では「シブポップ（シブヤポップカルチャーマーケット）」をテーマにソーシャルTV局やアニメ関連雑貨等を編集（9月）し、他にはないモノ・コトを提供する話題性の高いフロアを創出いたしました。

[名古屋パルコ]

中京地区随一のファッションビルとして情報発信力を高め先進性をマーケットに示すため、南館を中心にファッション強化の改装を実施いたしました(10月)。南館の1階(グランドフロア)と2階(西館との連絡階)に有力セレクトショップを誘致し、名古屋地区における最大規模のメンズ・レディース複合セレクトショップの集積ゾーンを構築したほか、西館6階にメンズ・レディース・キッズの複合ショップを導入し、カップル、ファミリーで楽しめるフロアに再編いたしました。東館も含めた3館連動により、都市生活者に向けた上質なライフスタイルを提案してまいります。

[静岡パルコ]

新たな商業施設の開業で市内の商業環境が大きく変わる中、もう一度、パルコらしさをマーケットに提案するため、平成19年の開業以来初となる大規模な改装を実施いたしました。1階のエントランス周辺のショップを全面的に刷新してイメージを向上させたほか、静岡エリア初進出のセレクトショップや話題のオーガニック化粧品、地元ベーカリーとの共同開発による食品の新業態ショップを導入し、ファッションのみならず幅広いアイテムによりトレンド情報を発信しております。

コミュニティ型店舗

[松本パルコ]

周辺ロードサイドに専門店の進出が相次ぐマーケットにおいて、広域から集まる幅広い客層に向け、市内中心部でのショッピングを楽しんでいただくため、アイテムのバラエティを拡充いたしました。地下1階の生活雑貨、インテリア、旅行等の集積フロアを全面的に改装してイメージ向上を図るとともに、上高地や北アルプスへの拠点となる立地特性を活かして大型アウトドア専門店を新規導入(オープンは12月1日)する等で、売上高と集客力の強化を図っております。

[ひばりが丘パルコ]

近隣の居住者による高級食品スーパーを中心としたデリーユースが強い店舗特性を踏まえ、また、周辺のマンション開発で新規来店客の増加が見込まれることも視野に、パルコとして期待される質感に伝える提案をテーマに改装を実施いたしました。1階エントランス周辺の大型ショップのリニューアルに加え、2階のレディースファッション区画を再編し、来店頻度の高い顧客にも新しい発見があり、毎日の暮らしの彩りとなる商品・サービスを提案するショップを導入いたしました。

国内の開発では、都心部における新たな事業モデルZERO GATE事業につきまして、心齋橋と道頓堀に、それぞれ外資系SPAブランドの出店が決定いたしました。2店舗とも平成25年春にオープンを予定しており、同時期オープンによる相乗効果で、大阪心齋橋エリアにおける地域の活性化と回遊性向上に貢献いたします。

海外事業につきましては、中華人民共和国におきまして、蘇州市に現地法人「百樂和商業諮詢(蘇州)有限公司」を設立し、複合ビル開発事業「尼盛広場プロジェクト」内商業施設「NISON CITY MALL(ニーソン シティ モール)」の平成25年春の開業に向けて業務を推進しております。また、当社子会社のPARCO(SINGAPORE)PTE LTDとTextile&Fashion Federation(Singapore)(シンガポールファッション協会)が、SPRING Singapore(企業家育成を支援する政府機関)のサポートにより運営しているシンガポールの地元デザイナー育成ゾーン「PARCO next NEXT」につきまして、期間限定ショップ(3月27日~4月4日)を渋谷パルコで展開し、当社が取り組む次世代ファッション情報発信との連動を強化いたしました。こうした点が評価され、シンガポールで開催予定のASEAN諸国における日本の次世代ファッション事業者の成長支援を目的とした当社のプロジェクト(平成25年2月)が、経済産業省「平成24年度クール・ジャパン戦略推進事業」に採択されております。

<専門店事業>

専門店事業の売上高は121億77百万円(前年同期比105.7%)、営業利益は1億73百万円(前年同期比148.0%)となりました。

株式会社ヌーヴ・エイにつきましては、オリジナル商品の売上高が大幅に伸長し、環境テーマや社会貢献を絡めた営業企画が好調だったT i C T A C事業とコレクターズ事業が牽引し、売上高、営業利益ともに前年同期実績を上回りました。新規出店につきましては、引き続き客層の幅広い商業施設への出店を積極的に進め、店舗数は8店舗増加し当第3四半期末現在では160店舗体制となっております。

<総合空間事業>

総合空間事業の売上高は143億74百万円（前年同期比102.2%）、営業利益は4億9百万円（前年同期比117.1%）となりました。

株式会社パルコスペースシステムズにつきましては、大型テナント内装工事受注が増加したことや、企業の環境負荷低減・省エネ対応の需要の高まりを背景に、パルコを含む商業施設の照明LED化工事の受注が増加したことに加え、外資系ホテルの客室関連業務の新規受託により売上高、営業利益ともに前年同期実績を上回りました。

<その他の事業>

その他の事業の売上高は47億83百万円（前年同期比101.4%）、営業損失は52百万円（前年同期営業利益5百万円）となりました。

株式会社パルコのエンタテインメント事業につきましては、三谷幸喜氏によるチェーホフの『桜の園』（演出）、初の文楽『其礼成心中』（作・演出）、宮本亜門氏によるミュージカル『W I Z』（演出）などがヒットしたほか、1つのコンテンツのマルチ企画展開（コンサート・展覧会・CD等）等の施策が売上高を底支えし、連動したパルコ店舗の集客と話題づくりに貢献いたしました。

株式会社パルコ・シティにつきましては、Webコンサルティング事業におきまして、商業施設のWebサイト制作・運営受託やFacebookなどのソーシャルネットワークサービス運用サポートコンサルティング業務を新たに5件受託したほか、小売事業者のWebサイト支援業務につきましても順調に推移しております。

（注）セグメント別の業績における売上高には、営業収入が含まれております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

（資産、負債及び純資産の状況）

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して27億11百万円増加し、2,114億9百万円となりました。主な要因は、受取手形及び営業未収入金の増加などによるものであります。当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比較して146億67百万円減少し、1,094億52百万円となりました。主な要因は、新株予約権の行使による新株予約権付社債の減少などによるものであります。純資産は、前連結会計年度末と比較して173億78百万円増加し、1,019億56百万円となりました。主な要因は、新株予約権の行使に伴う新株式の発行による資本金及び資本剰余金の増加などによるものであります。

（キャッシュ・フローの状況）

当第3四半期連結会計期間末では、現金及び現金同等物は前連結会計年度末と比較して16億35百万円増加し90億72百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益66億31百万円に非資金項目となる減価償却費や特別損益項目等を調整し111億42百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、24億79百万円の支出となりました。これは、主に池袋パルコ等の有形固定資産の取得による支出などによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、70億42百万円の支出となりました。これは、主に有利子負債の減少や配当金の支払いなどによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年2月期の通期連結業績予想につきましては、平成24年10月4日に発表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,437	9,072
受取手形及び営業未収入金	7,686	12,283
有価証券	—	300
商品及び製品	2,559	3,265
仕掛品	229	421
原材料及び貯蔵品	38	32
その他	5,372	5,446
貸倒引当金	△7	△9
流動資産合計	23,317	30,813
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	119,392	118,975
減価償却累計額	△72,732	△73,845
減損損失累計額	△876	△949
建物及び構築物(純額)	45,784	44,179
信託建物及び構築物	17,209	17,209
減価償却累計額	△1,620	△2,259
信託建物及び構築物(純額)	15,588	14,950
機械装置及び運搬具	1,379	1,396
減価償却累計額	△1,035	△1,072
機械装置及び運搬具(純額)	344	323
信託機械装置及び運搬具	16	16
減価償却累計額	△4	△6
信託機械装置及び運搬具(純額)	12	9
その他	5,315	5,538
減価償却累計額	△3,933	△4,152
減損損失累計額	△90	△109
その他(純額)	1,290	1,276
信託その他	136	136
減価償却累計額	△42	△57
信託その他(純額)	94	78
土地	43,992	44,071
信託土地	19,371	19,371
建設仮勘定	11	269
有形固定資産合計	126,490	124,531
無形固定資産		
借地権	10,949	10,949
その他	788	748
無形固定資産合計	11,738	11,698

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年2月29日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年11月30日)
投資その他の資産		
投資有価証券	2,702	2,642
敷金及び保証金	41,000	38,478
その他	3,657	3,457
貸倒引当金	△208	△212
投資その他の資産合計	47,152	44,365
固定資産合計	185,380	180,595
資産合計	208,697	211,409
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	16,526	22,545
短期借入金	20,971	13,496
未払法人税等	1,072	1,593
引当金	1,438	954
その他	9,679	9,450
流動負債合計	49,687	48,040
固定負債		
社債	1,000	500
新株予約権付社債	15,000	—
長期借入金	21,565	24,130
引当金	1,617	1,706
受入保証金	34,419	34,277
その他	830	798
固定負債合計	74,432	61,412
負債合計	124,120	109,452
純資産の部		
株主資本		
資本金	26,867	34,367
資本剰余金	27,526	35,121
利益剰余金	30,320	32,460
自己株式	△150	△15
株主資本合計	84,563	101,933
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	200	217
為替換算調整勘定	△209	△195
その他の包括利益累計額合計	△8	22
少数株主持分	22	—
純資産合計	84,577	101,956
負債純資産合計	208,697	211,409

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)
売上高	187,992	193,855
売上原価	159,776	164,673
売上総利益	28,216	29,182
営業収入	2,077	2,046
営業総利益	30,293	31,229
販売費及び一般管理費	24,137	23,887
営業利益	6,156	7,341
営業外収益		
受取利息	65	40
受取配当金	48	42
持分法による投資利益	105	—
雑収入	282	224
営業外収益合計	501	307
営業外費用		
支払利息	631	501
持分法による投資損失	—	128
雑支出	29	97
営業外費用合計	661	727
経常利益	5,997	6,922
特別利益		
固定資産売却益	186	—
貸倒引当金戻入額	5	—
受取損害賠償金	—	569
その他	24	—
特別利益合計	216	569
特別損失		
固定資産除却損	753	748
減損損失	8	92
災害による損失	103	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	148	—
その他	88	19
特別損失合計	1,102	860
税金等調整前四半期純利益	5,111	6,631
法人税等	2,208	2,838
少数株主損益調整前四半期純利益	2,902	3,793
少数株主損失(△)	△0	—
四半期純利益	2,902	3,793

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,902	3,793
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△214	17
為替換算調整勘定	△47	11
持分法適用会社に対する持分相当額	—	2
その他の包括利益合計	△262	31
四半期包括利益	2,640	3,824
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,642	3,824
少数株主に係る四半期包括利益	△1	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年3月1日 至 平成23年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	5,111	6,631
減価償却費	4,695	4,541
減損損失	8	92
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△541	△526
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	74	89
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	△53	—
受取利息及び受取配当金	△114	△83
支払利息	631	501
受取損害賠償金	—	△569
固定資産除売却損益 (△は益)	△43	267
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	148	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△4,501	△4,594
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△480	△891
仕入債務の増減額 (△は減少)	5,460	6,020
その他の資産・負債の増減額	2,875	734
その他	42	236
小計	13,315	12,450
利息及び配当金の受取額	114	83
利息の支払額	△771	△630
損害賠償金の受取額	—	1,578
店舗閉鎖に伴う支払額	△333	△87
法人税等の支払額	△4,056	△2,250
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,267	11,142
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△300	△300
有形固定資産の取得による支出	△2,161	△3,590
有形固定資産の売却による収入	1,471	1
投資有価証券の取得による支出	△229	△1
投資有価証券の売却による収入	0	5
敷金及び保証金の差入による支出	△68	△867
敷金及び保証金の回収による収入	1,978	2,607
受入保証金の増減額 (△は減少)	△1,952	△244
その他	△137	△90
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,397	△2,479
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	7,140	△795
長期借入れによる収入	175	8,500
長期借入金の返済による支出	△15,139	△12,657
社債の償還による支出	△500	△500
自己株式の純増減額 (△は増加)	△102	229
配当金の支払額	△1,399	△1,652
その他	△48	△166
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,873	△7,042
現金及び現金同等物に係る換算差額	△26	14
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△3,030	1,635
現金及び現金同等物の期首残高	12,253	7,437
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,222	9,072

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

株式会社日本政策投資銀行を割当先として発行した、第1回無担保転換社債型新株予約権付社債に付された新株予約権が、平成24年8月1日付で権利行使されました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金が75億円、資本準備金が75億円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が343億67百万円、資本剰余金が351億21百万円となっております。

(6) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年3月1日至平成23年11月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ショッピングセンター事業	専門店事業	総合空間事業	その他の事業	計	調整額 (注)2	四半期連結損益計算書計上額 (注)3
売上高(注)1							
(1) 外部顧客への売上高	170,583	6,602	8,399	4,485	190,070	—	190,070
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	4,921	5,663	229	10,814	△10,814	—
計	170,583	11,523	14,062	4,714	200,884	△10,814	190,070
セグメント利益	5,669	117	349	5	6,142	13	6,156

(注)1 売上高には、営業収入が含まれております。

2 セグメント利益の調整額13百万円は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年11月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	ショッピングセンター事業	専門店事業	総合空間事業	その他の事業	計	調整額 (注)2	四半期連結損益計算書計上額 (注)3
売上高(注)1							
(1) 外部顧客への売上高	175,198	7,370	8,792	4,541	195,902	—	195,902
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	4,806	5,582	241	10,630	△10,630	—
計	175,198	12,177	14,374	4,783	206,533	△10,630	195,902
セグメント利益又は損失(△)	6,811	173	409	△52	7,342	△0	7,341

(注)1 売上高には、営業収入が含まれております。

2 セグメント利益又は損失の調整額△0百万円は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。